

講義名	社会心理学			授業形態	
担当教員	福田 哲也	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

人は社会の中で生きており、常に他者に影響を与えたり、他者から影響を受けたりしている。社会心理学は、社会を構成する人々の間が生み出す効果やそれらの発生プロセスを扱う学問である。社会心理学は幅広いテーマを持つ学問であるが、その研究対象は、個人内の心理過程、二者間の社会的関係や社会的相互作用、集団や組織・文化という3つのレベルに大別することができる。この授業では、それぞれに関する主要なトピックについて概念や理論、研究を概観する。そしてこれらを通して、社会心理学に関する基礎的な知識やその考え方・物事の見方を理解することを目標とする。

到達目標

人が物事や他者について推論・判断する際の心理プロセスやバイアスを説明できる。
 人と人が関わることで生じる現象や効果について説明できる。
 人が集団となることで生じる様々な現象を説明できる。
 文化の違いと人の心の関わりについて説明できる。

提出課題

各授業回では、リアクションペーパーの提出を求める。記載内容は、授業に対するコメントや質問等である。また授業の最後には、授業内容に関連した問題を出題するので、その回答もリアクションペーパーに記載し、提出すること。なおリアクションペーパーの提出は成績評価とは独立したものである。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

各授業の最後に出題した問題は、次回授業時に解説を行う。同時にリアクションペーパーに記載された質問、当該授業回に関する要望（再度の説明や関連内容に関する説明の要望）に対しては、次回授業時に受講生全体に対して返答する。

評価の基準

授業内確認テスト3回により総合的に評価する。

注重点
 (a) 本授業の成績評価は上記のみに基づく。特定個人への追加課題や再テストなど、受講生の公平性を欠くような対応は断じて行わない。
 (b) 成績評価の対象者は、授業の欠席回数か総授業回数の3分の1未満の受講生のみである（学期第16条-2に準ずる）。授業全体で出席回数か一定に満たない場合（全15回の授業において出席が11回未満の場合）、確認テストの得点に関わらず、「放棄」となる。
 (c) 上記 (b) の通り、出席が成績評価の前提となるため、出席に関する不正行為は成績評価に関する不正行為（カンニング・剽窃等）と同義とみなし、出席に関する不正行為を行った受講生および関わった受講生は不正が確認された時点で本授業の成績評価を「放棄」とする。

履修にあたっての注意・助言他

- ・授業では教科書を使用せず、資料を配布する。
- ・必要に応じて教員の説明を自分でノートや資料にメモすることが求められる。
- ・公的な大会や行事、思引きなどやむを得ない事情での授業欠席は、欠席届および証明書を提出することで、欠席扱いにならない場合がある（証明書がない場合や本人の不注意、欠席事由に正当性が認められない場合などは除く）。
- ・本授業は、心理社会学科心理コースにおいて卒業必修科目となっている。心理社会学科1年生において、2年次に心理コースへの所属を検討している学生には履修を強く推奨する。

教科書

.使用しない。				
---------	--	--	--	--

参考図書

.社会心理学 補訂版。	池田 謙一・藤沢 稔・工藤 恵理子・村本 由紀子	有斐閣	3520	9784641053878
.社会心理学概論	北村 英哉・内田 由紀子	ナカニシヤ出版	3850	9784779510595
.ザ・ソーシャル・アニマル[第11版]:人と世界を読み解く社会心理学への招待。	エリオット アロンソン・岡 隆(翻訳)	サイエンス社	4180	9784781913360

その他

各回で資料を配布する。

授業計画

- オリエンテーション
- 物事に対する判断・推論
- 非意識的過程・行動の自動性
- 自己
- 他者に対する評価・判断
- これまでの振り返り : 個人内の心理過程
- 態度と態度変化
- 対人行動
- 対人関係
- これまでの振り返り : 社会的関係
- 集団内での影響過程
- 集団間関係
- 集合行動
- 文化
- これまでの振り返り : 集団・文化

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・各授業回で配布された資料を確認し、用語の意味や理論を自ら説明できるようにしておくこと（各回につき60分）
- ・授業内で紹介された心理学に関する概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（各回につき90分）
- ・参考文献をはじめとした授業に関連する書籍や論文を図書館やインターネット上から自ら見つけだし、熟読すること（各回につき90分）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

心理社会学科共通ディプロマシーポリシー
 (1) 社会の仕組みや働き、日常生活や文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる。
 目標 - の達成は、人の心理や他者とのかわり、人々が集まることで形成される社会や文化を理解することと同義であるため、自目標の達成はこのディプロマシーポリシー達成のために貢献している。

(2) 統計調査やフィールドワークなどの実証的な調査研究の方法、コミュニケーション能力を身に付け、それらを社会共創活動、ビジネス、援助に実践的に活用することができる。
 本授業は、実際に調査研究やフィールドワークを実施するわけではないが、自授業では、実際に行われた研究についてその方法も含め説明を行う。また目標 - を達成することは、他者とのコミュニケーションにおける原理や法則性を理解することにつながる。

心理社会学科 社会・文化コースディプロマシーポリシー
 (1) 社会構造や社会制度といった社会の仕組みや働き、地域社会における人びとの生活や文化などについて専門的な知識を有し、さまざまなことがらに社会における役割や意義を理解し、考えることができる。
 目標 - の達成は、社会や地域の中で生きる人々の心理的メカニズムや社会との関わりについての理解が伴う。そのため、自目標の達成は、このディプロマシーポリシー達成に貢献できる。

(2) 社会の問題や人びとの考え方を捉えることができ、社会共創・産学連携、インターンシップなどで現実社会との接点を持ち、「社会人」として活躍できる基礎的な能力を身に付け、より良い社会を実現するための新しい社会、文化を創造することができる。
 社会問題の中には、人同士が関わって生じる問題や人々の考え方に起因して生じているものがある。目標 - の達成は、そうした社会問題の理解し、解決を考えることに貢献できる。

心理社会学科 心理コースディプロマシーポリシー
 (1) 人間の精神機能と心理学の研究法に関する基礎的知識を有し、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することができる。
 本授業の目的 - は、このディプロマシーポリシーに挙げられた「人間の精神機能と心理学に関する基礎的知識」の習得と同義であるため、自目標の達成はこのディプロマシーポリシー達成に貢献する。

(2) コミュニケーション能力と、消費者と援助を求める人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場面で援助場面で心理学を応用することができる。
 本授業の目的 - は、コミュニケーションや消費者行動、援助行動を含む人の全般的な社会的行動の理解に関連している。そのため、これらの目標の達成は、このディプロマシーポリシーに貢献する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

・授業ではLMS（学習支援システム）であるCampus-Xsを用いるため、ウェブにアクセスできる端末が必要となる。